

一般財団法人アジア太平洋研究所
ナレッジキャピタル移転記念シンポジウム
—アジア太平洋時代を勝ち抜く関西の戦略—
(2013年5月17日)

東アジアの新たな国際分業と経済統合： いかにして経済活力を取り込むか

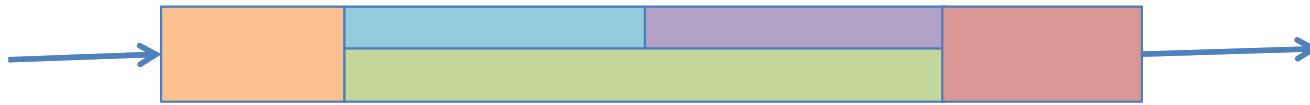
東アジア・アセアン経済研究センター(ERIA)チーフエコノミスト
慶応義塾大学経済学部教授
公益財団法人東京経済研究センター(TCER)代表理事
木村 福成

1. 新たな国際分業と東アジア

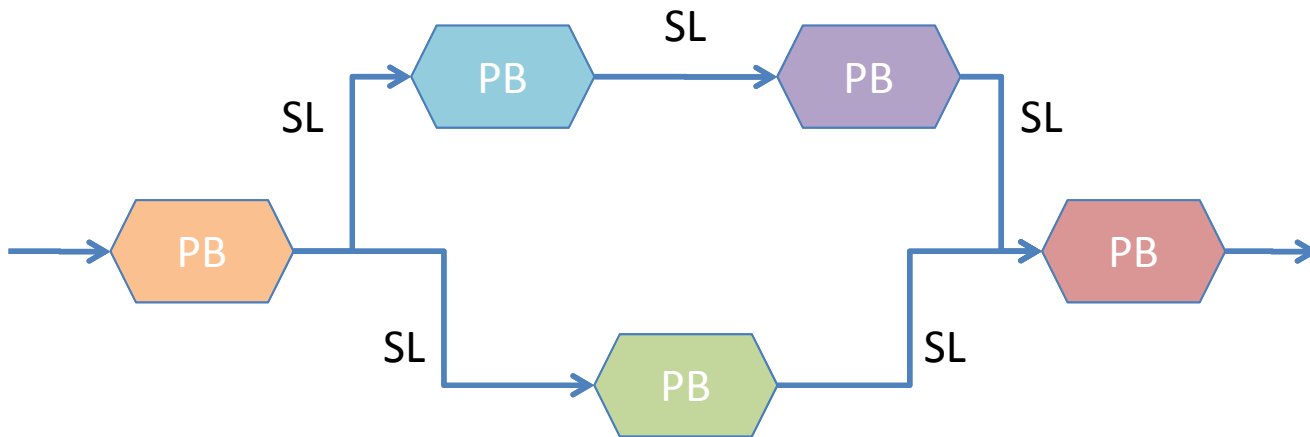
- 東アジア、製造業に関する「生産工程・タスク単位の国際分業」がもっとも進んでいる地域。
- 新しい開発モデル
 - 後発国: 工業化の立ち上げ加速。
 - 中進国: 産業集積の形成。
 - 経済統合と格差是正の同時実現が可能。
- 経済理論
 - フラグメンテーション理論 (Jones and Kierzkowski (1990))
 - 2次元のフラグメンテーション理論 (Kimura and Ando (2005))
 - 第2のアンバンドリング (Baldwin (2011))
- 製造業に関する東アジアの優位、当分続く。
 - 世界金融危機以降、さらなる域内分業体制の拡大・深化。
 - 製造業品の交易条件悪化、緩やかな賃金上昇、電子部品等の供給基地化など。

フラグメンテーション理論：生産ブロックとサービス・リンク

フラグメンテーション以前

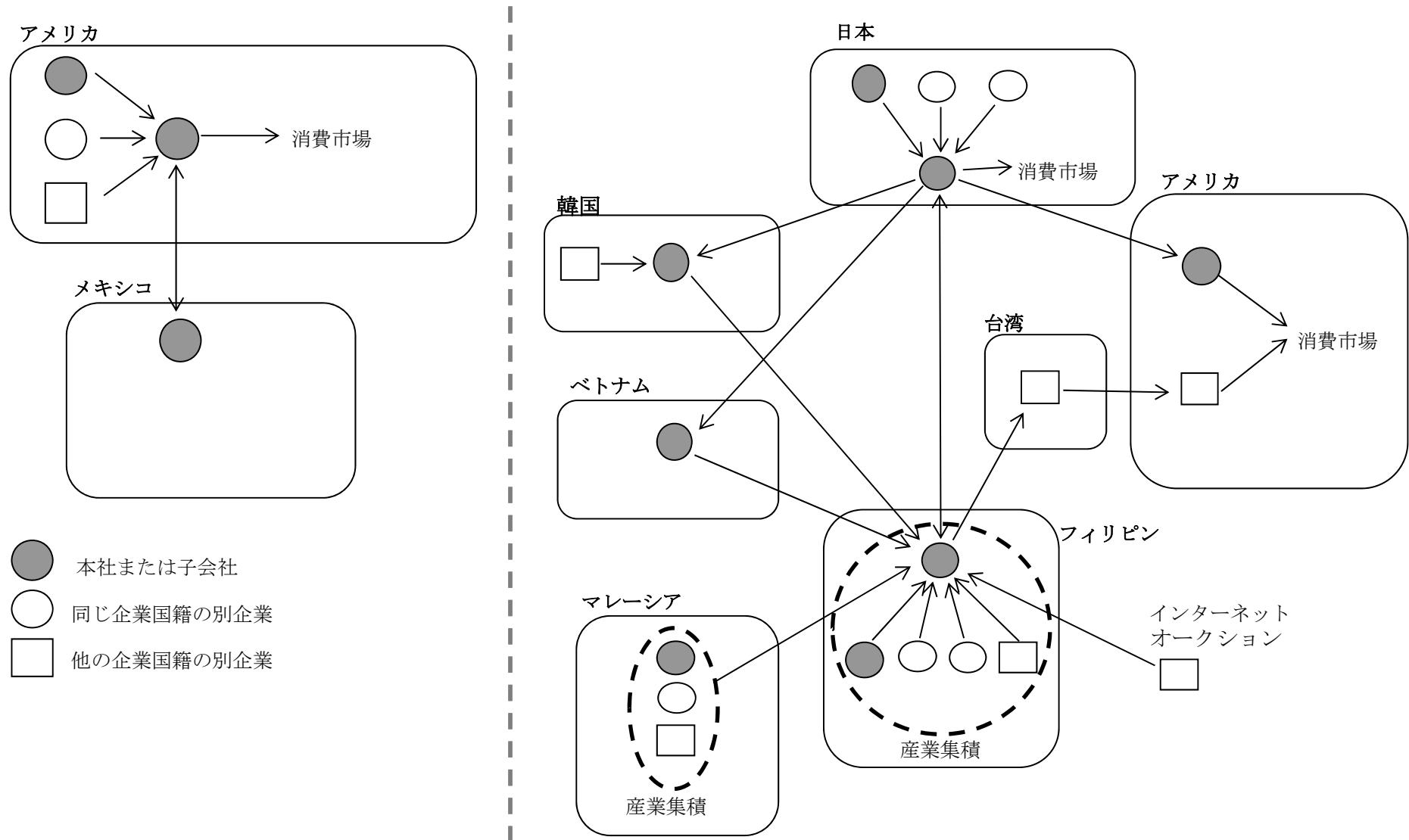


フラグメンテーション後

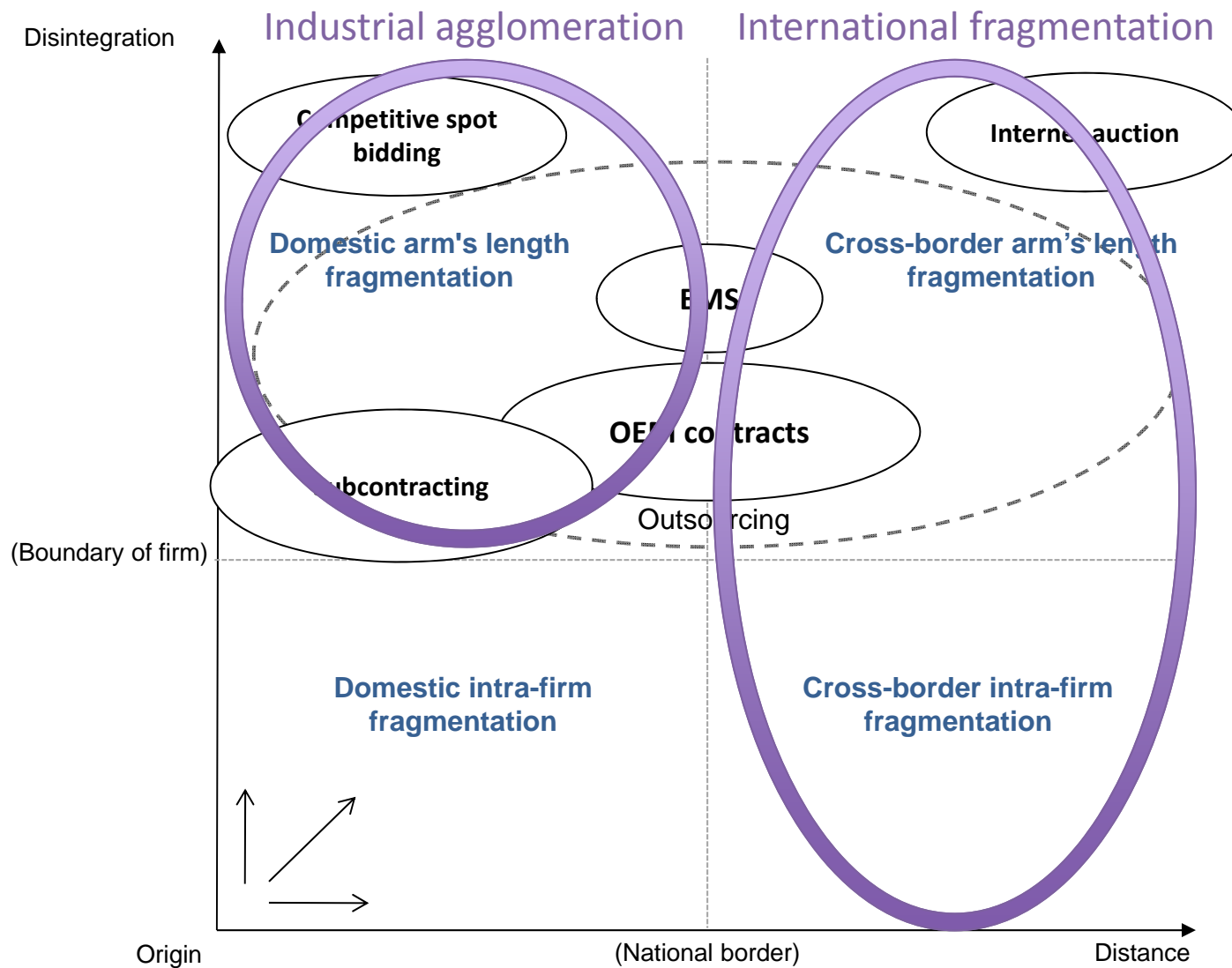


PB: 生産ブロック
SL: サービス・リンク

生産ネットワークの構造: アメリカ=メキシコと東アジア

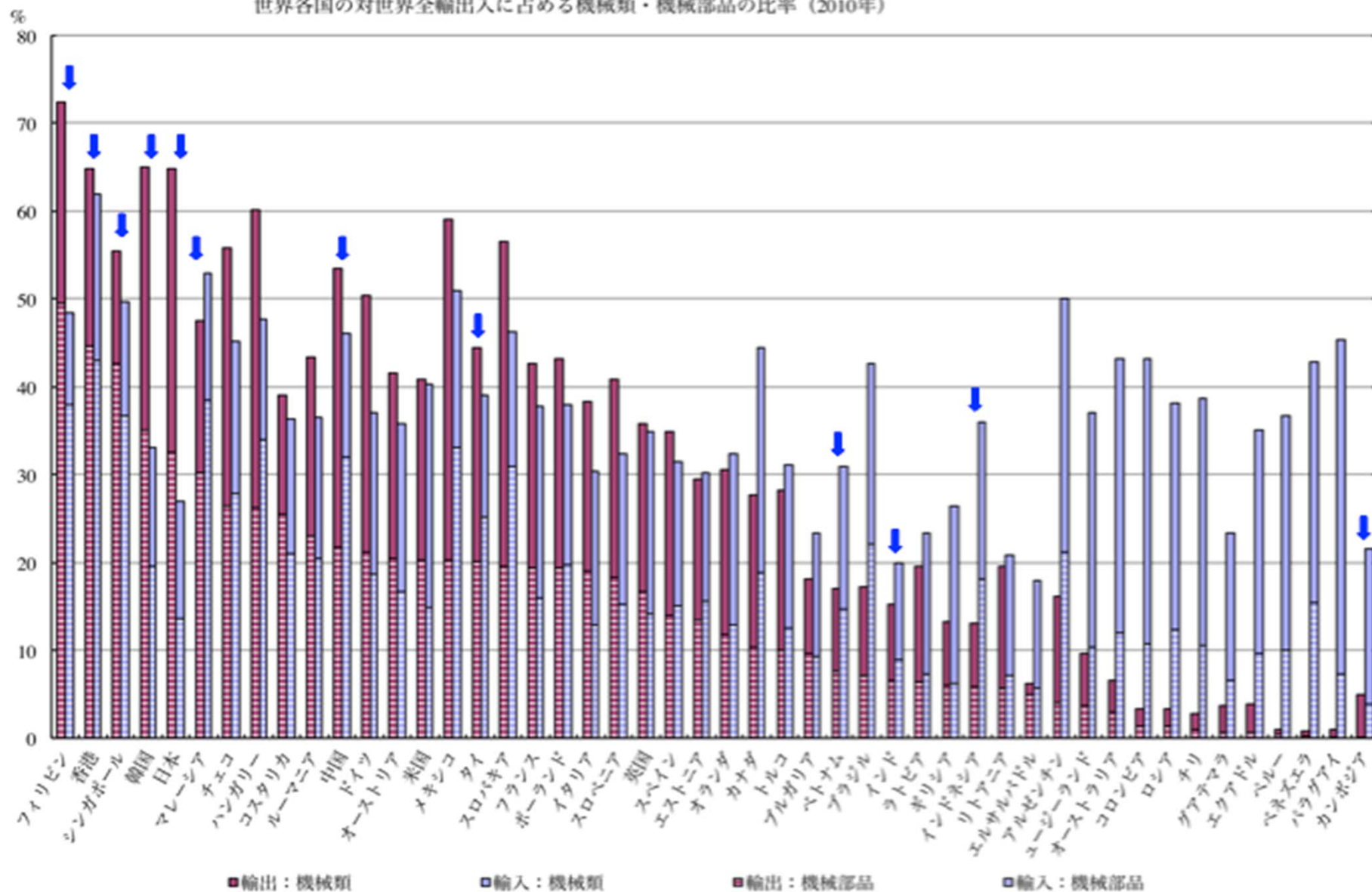


Two-dimensional fragmentation: An illustration



Source: Kimura and Ando (2005).
2013/05/17

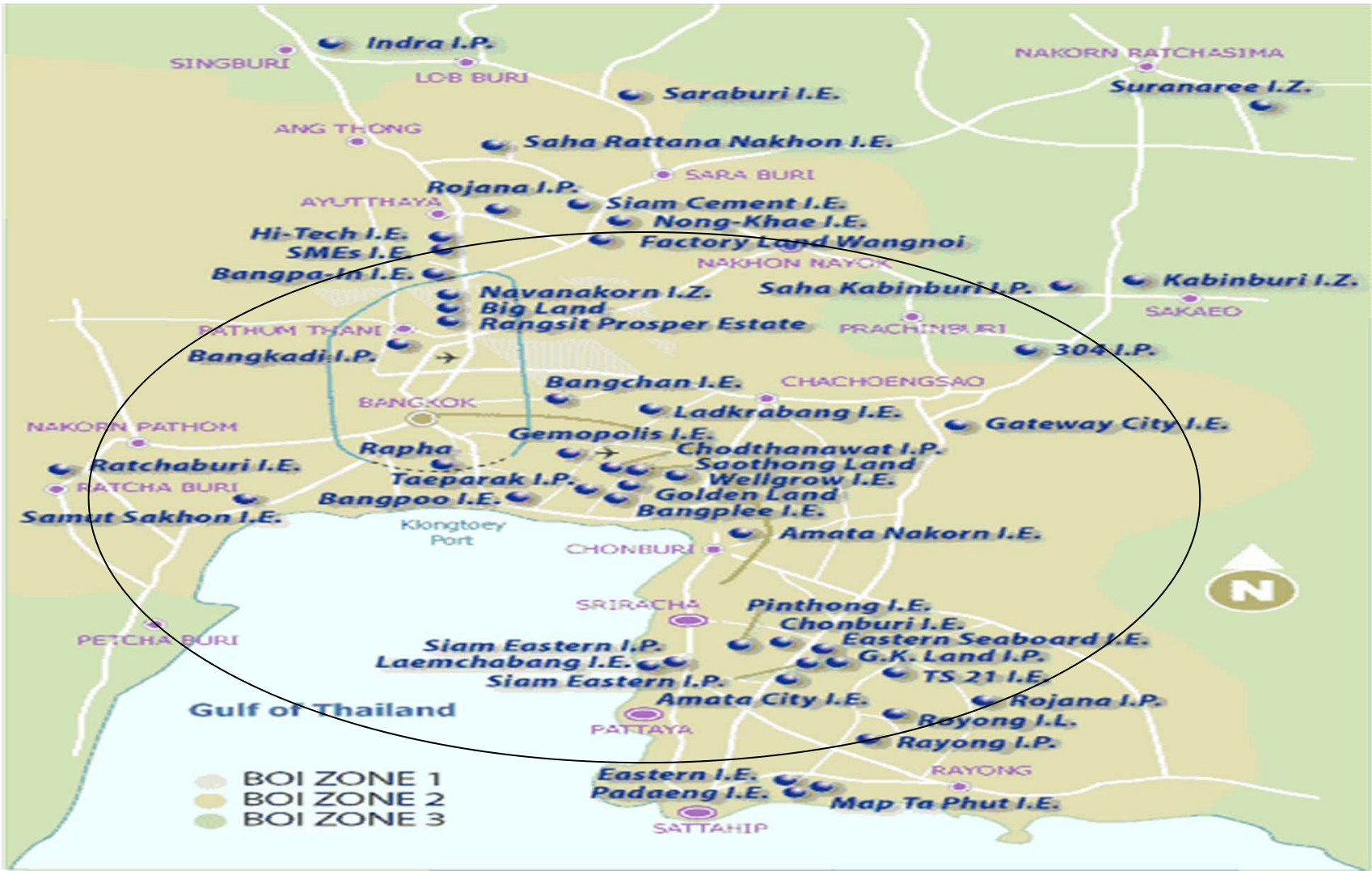
世界各国の対世界全輸出入に占める機械類・機械部品の比率 (2010年)



データ出所: UN COMTRADE.
出所: Ando and Kimura (2012b).

2013/05/17

Industrial Agglomeration in Bangkok



Note: The circle of 100km is added by the author (Original source: Board of Investment, Thailand)
Source: ERIA (2010).

拡大東アジア諸国の所得水準

一人当たりGDP (USドル・名目)	1995	2000	2008	2020 (推計値)
オーストラリア	19,915	19,508	45,062	66,073
シンガポール	24,220	23,073	39,422	58,006
ブルネイ	16,050	17,996	35,626	57,858
日本	41,833	36,835	38,581	49,164
ニュージーランド	16,640	13,613	29,860	42,080
韓国	11,581	11,488	19,295	33,648
マレーシア	4,314	4,030	8,197	14,454
タイ	2,794	1,968	4,055	10,531
中国	601	946	3,235	8,671
インドネシア	1,056	804	2,247	6,859
フィリピン	1,059	977	1,847	6,675
ベトナム	284	396	1,041	3,800
インド	350	411	960	3,584
カンボジア	303	287	754	2,336
ラオス	370	303	852	1,948
ミャンマー	125	191	529	1,172
拡大東アジア平均	2,847	2,660	4,277	8,579

出所: Fujimoto, Hara, and Kimura (2010).

2. いかにアジアの成長を取り込むか

- 海外で稼いで送金するだけでは、十分な成長率を実現できない。国内に仕事を作る必要あり。
- 生産工程・タスク単位の国際分業、先進国の空洞化を遅延させうる。
- 東アジアにおける子会社数を増加させた製造業企業は、そうでない企業よりも、国内雇用を創出している(Ando and Kimura (2012c))。
 - 『企業活動基本調査』の個票データに基づく分析。
- ただし、特に世界金融危機以降、空洞化が進行している可能性あり(Ando and Kimura (2012a))。
 - 立地の優位性の確保が急務。

日本の製造業企業における海外進出と国内雇用：
東アジアにおける子会社数の変化と国内雇用の変化率

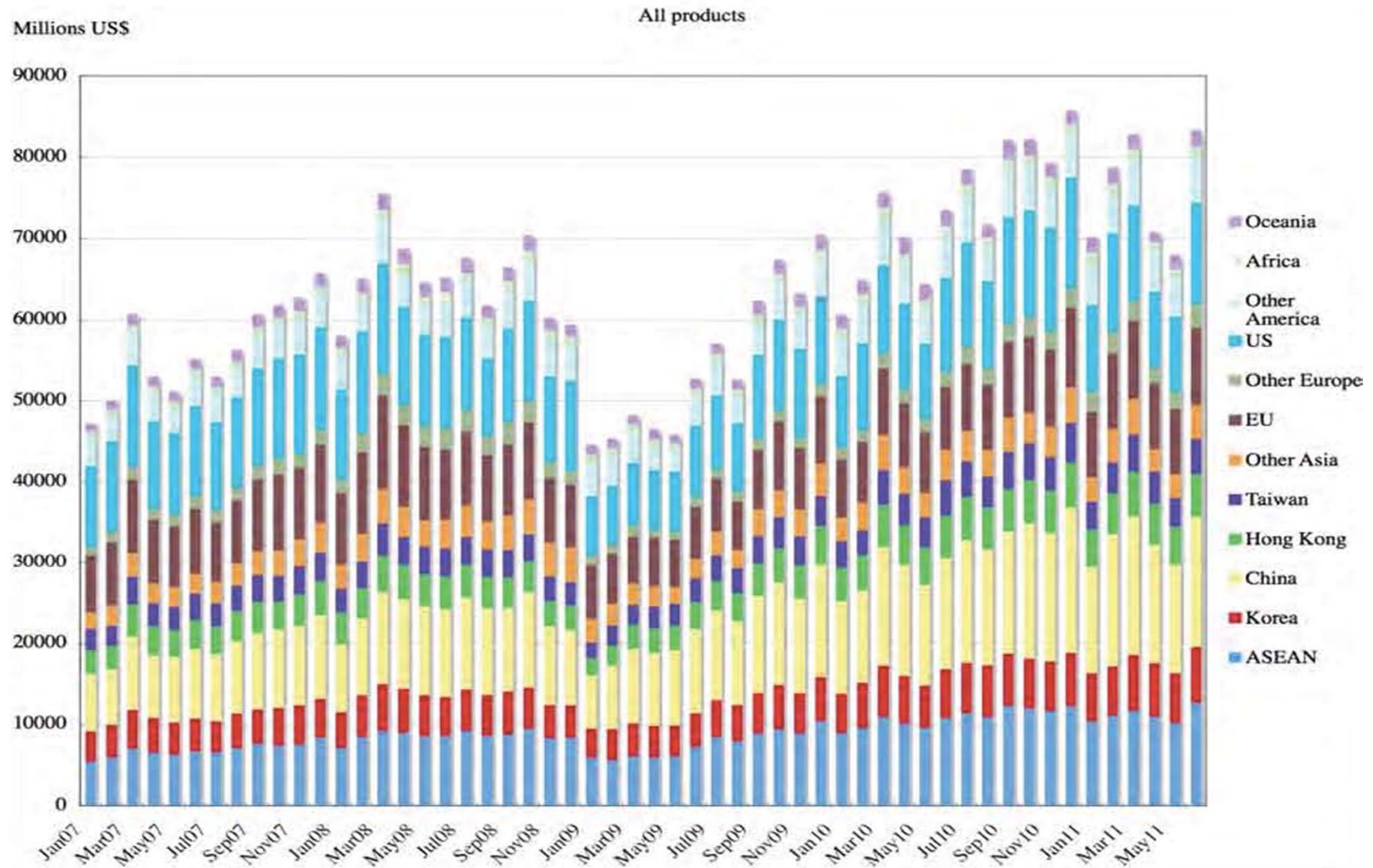
		1998-2002年	2002-2006年	2007-2009年
東アジアにおける 子会社数を	増加させた企業 (新規も含む)	4.3%***	6.6%***	3.6%***
	一定に保った企 業	-1.5%	-0.4%	-0.6%
	減少させた企業 (撤退も含む)	0.5%	-0.8%	-3.3%***

『企業活動基本調査』の個票データを用いた回帰分析結果の一部。東アジアに子会社を所有していない企業をベースとして、それよりもどれだけ追加的に国内雇用を創出したかを表したもの。***は符号が1%水準で有意であることを表す。

出所：Ando and Kimura (2012c).

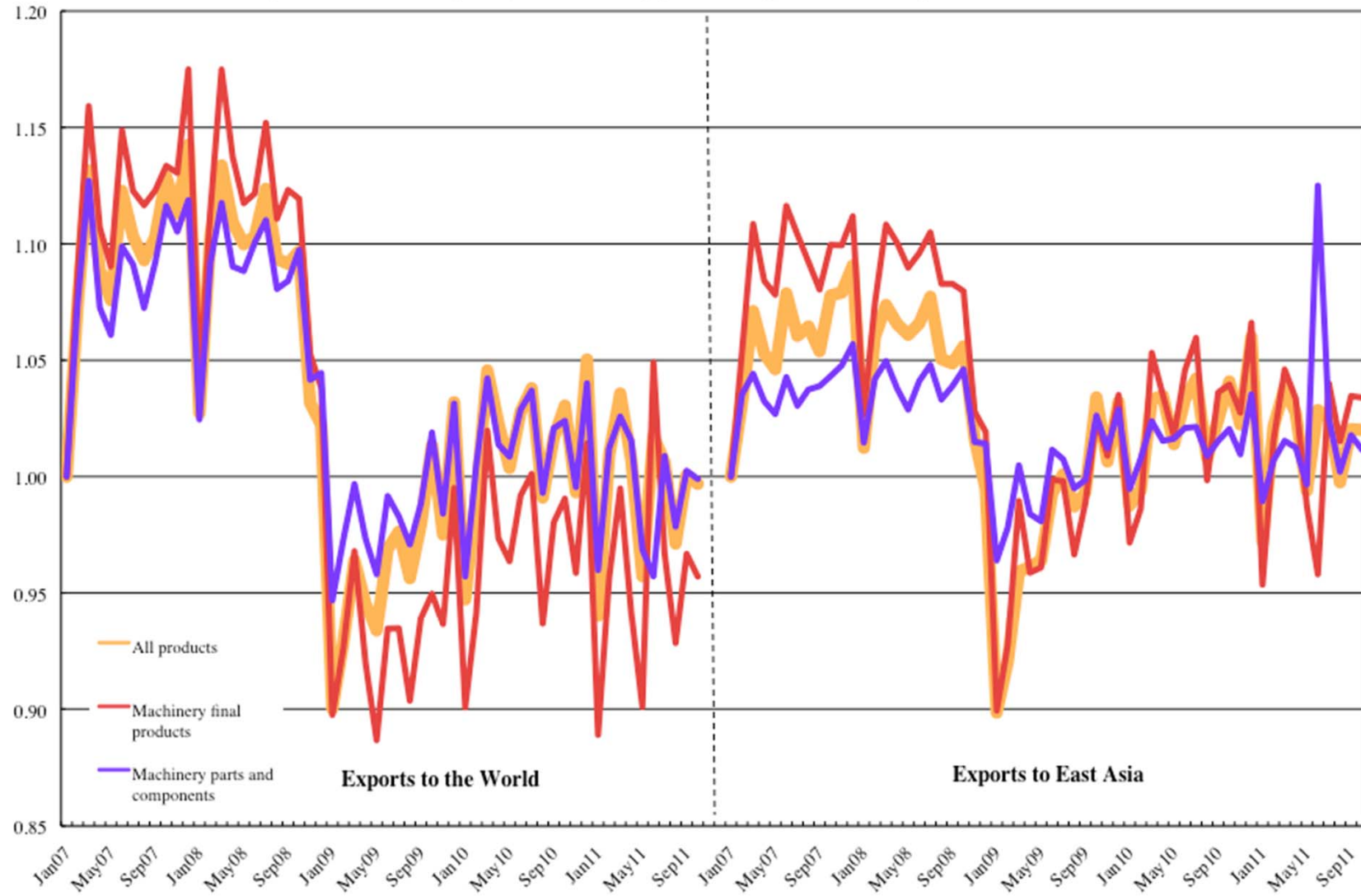
日本の月次輸出額(輸出物価指数で実質化、USDベース)

Figure 1 Japanese exports by region



日本の月次輸出のextensive margin(輸出品目数×輸出先国数)

Figure 2 The number of exported products (tallied by partner country), indexed to January 2007=1



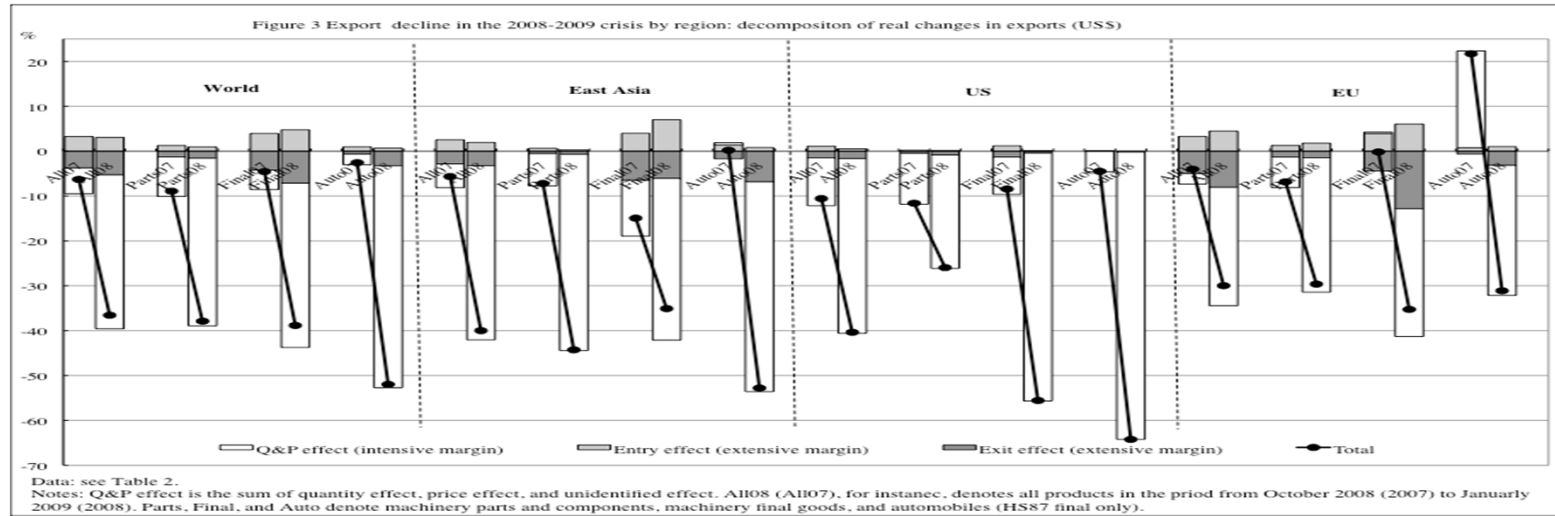
Data: authors' calculation, using data available from the website of the Ministry of Finance.

3. 生産ネットワークの安定性・頑健性

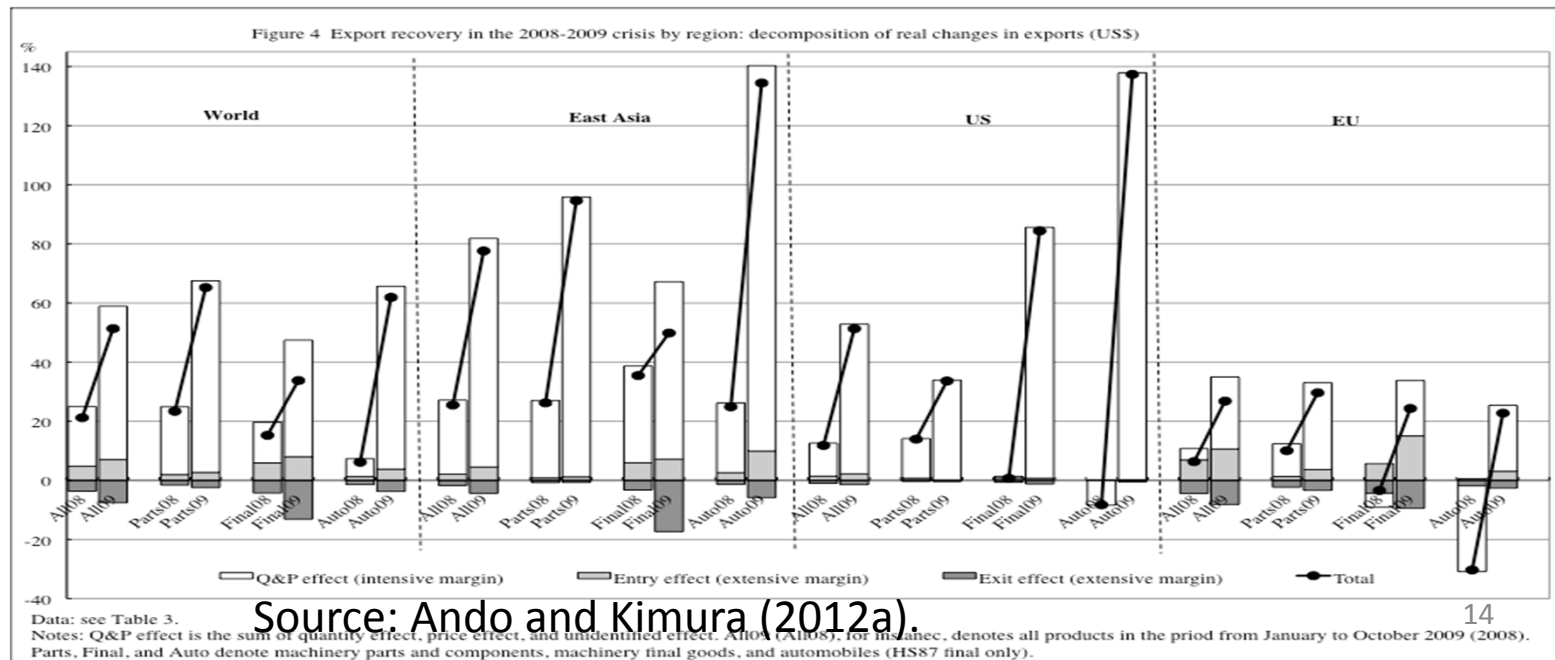
- 世界金融危機・東日本大震災の際の日本の月次細品目輸出データを分析 (Ando and Kimura (2012a))。
 - 機械部品輸出は、大きなショックが来ても途切れにくく、また、いったん途切れても復活しやすい。
- 生産ネットワーク、ショックの伝達経路ともなりうるが、一方で安定性・頑健性も有している。

3. Decomposition Analysis: GFC

<Fall>



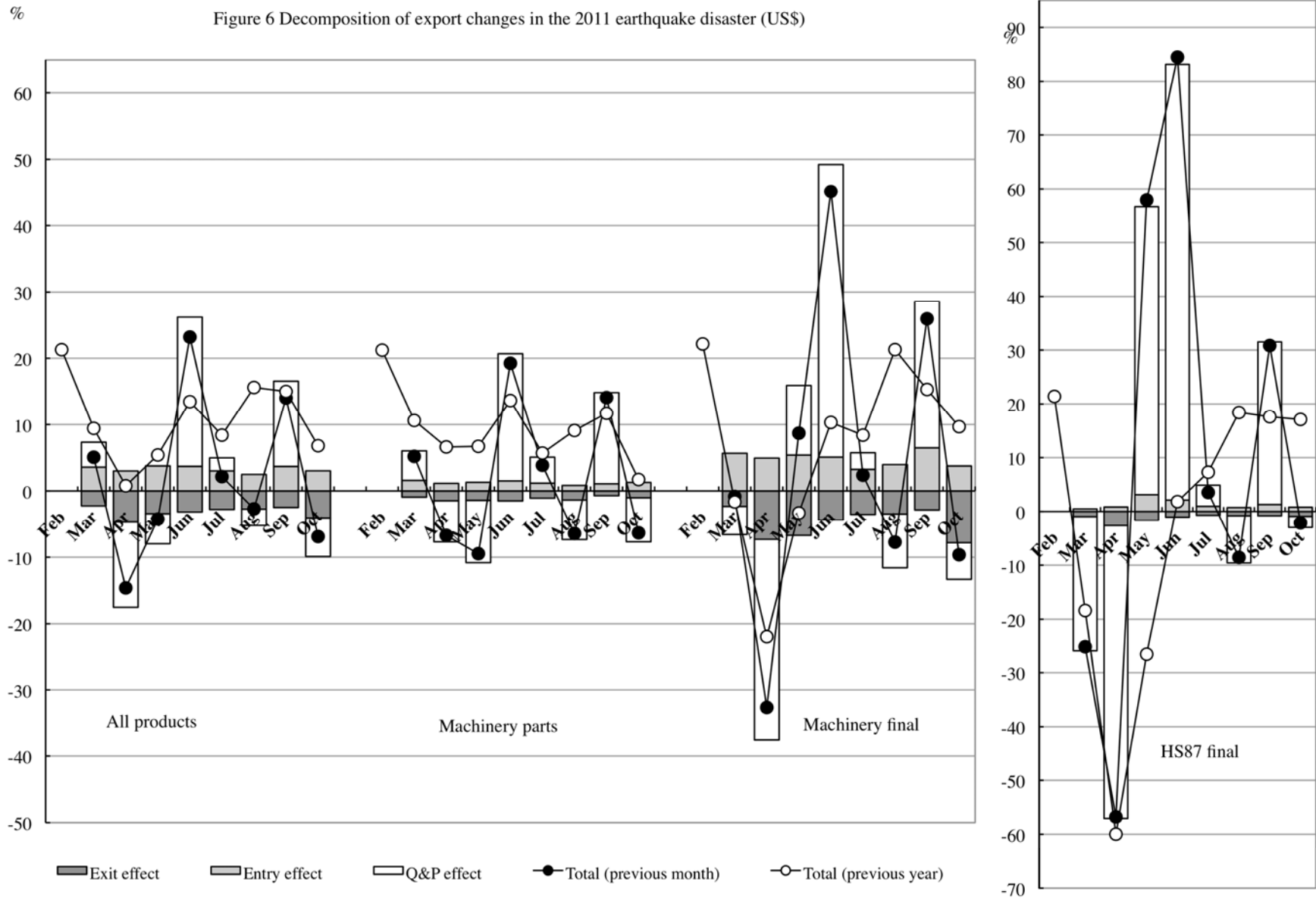
<Recovery>



2013/05/17

Source: Ando and Kimura (2012a).

Figure 6 Decomposition of export changes in the 2011 earthquake disaster (US\$)



Data: see Table 6.

Note: Q&P effect is the sum of quantity effect, price effect, and unidentified effect.

2013/05/17

Source: Ando and Kimura (2012a).

Table 4 Logit estimation: Japan's machinery exports at GFC

	(Excerpt)			
	Machinery EX		Machinery EX (except HS87)	
	Fall	Recovery	Fall	Recovery
Distance (log)	-0.05	0.10 *	-0.02	0.09
Parts	-0.51 ***	0.28 ***	-0.59 ***	0.33 ***
Korea	-1.37 ***	1.38 ***	-1.52 ***	1.51 ***
China	-1.74 ***	1.20 ***	-1.95 ***	1.43 ***
Taiwan	-1.31 ***	1.05 ***	-1.44 ***	1.13 ***
Hong Kong	-1.35 ***	0.91 ***	-1.39 ***	0.97 ***
Viet Nam	-0.96 ***	1.38 ***	-1.10 ***	1.42 ***
Thailand	-1.53 ***	1.11 ***	-1.67 ***	1.21 ***
Singapore	-1.39 ***	0.68 ***	-1.55 ***	0.77 ***
Malaysia	-0.91 ***	0.92 ***	-1.02 ***	1.00 ***
Brunei	0.88 ***	-0.75 **	1.18 ***	-1.57 ***
Philippines	-0.99 ***	1.03 ***	-1.07 ***	0.99 ***
Indonesia	-0.91 ***	0.86 ***	-1.06 ***	0.92 ***
Cambodia	0.76 ***	0.30	0.57 ***	0.00
Laos	0.53 *	-1.05 **	2.29 ***	-1.35 *
Myanmar	0.35 **	0.12	0.54 ***	-0.03
US	-1.99 ***	0.37 **	-2.22 ***	0.54 ***
EU	-0.53 ***	0.07 *	-0.63 ***	0.12 ***
Constant	0.93 ***	-2.09 ***	0.82 **	-2.15 ***
Log likelihood	-29744	-11949	-25209	-10302
Sample	45979	20507	39546	17930

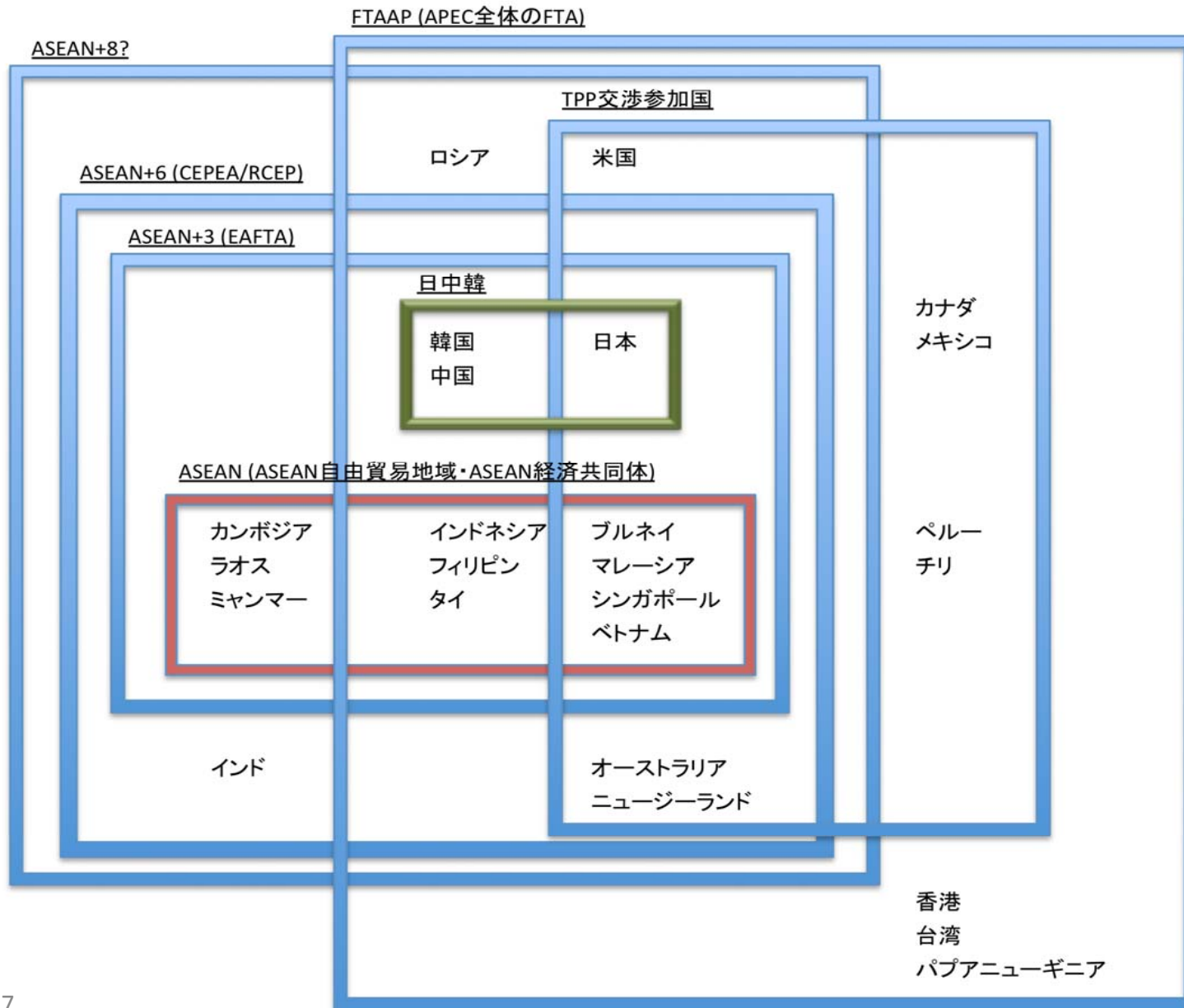
Table 7 Logit estimation : Japan's machinery exports at EJE

	(Excerpt)			
	Machinery EX		Machinery EX (except HS87)	
	Fall	Recovery	Fall	Recovery
Distance (log)	-0.14 ***	0.11 **	-0.08 **	0.13 **
Parts	-0.47 ***	0.06 *	-0.53 ***	0.13 ***
Korea	-1.88 ***	0.96 ***	-1.91 ***	1.05 ***
China	-2.11 ***	0.89 ***	-2.18 ***	0.98 ***
Taiwan	-1.69 ***	0.95 ***	-1.76 ***	1.18 ***
Hong Kong	-1.58 ***	0.74 ***	-1.63 ***	0.89 ***
Viet Nam	-1.30 ***	0.87 ***	-1.37 ***	1.04 ***
Thailand	-1.76 ***	0.79 ***	-1.90 ***	0.81 ***
Singapore	-1.39 ***	0.77 ***	-1.48 ***	0.84 ***
Malaysia	-1.18 ***	0.77 ***	-1.21 ***	0.83 ***
Brunei	1.02 ***	-0.38	2.07 ***	-0.49
Philippines	-1.18 ***	0.33 **	-1.18 ***	0.47 **
Indonesia	-1.15 ***	0.83 ***	-1.24 ***	0.99 ***
Cambodia	0.43 ***	0.12	0.53 ***	0.23
Laos	0.67 *	-1.79 **	1.28 ***	-2.11 **
Myanmar	0.06	-0.03	0.25	-0.05
US	-1.78 ***	0.52 ***	-1.94 ***	0.58 ***
EU	-0.50 ***	0.14 ***	-0.57 ***	0.19 ***
Constant	1.53 ***	-2.06 ***	1.14 ***	-2.35 ***
	(4.48)	(-3.89)	(3.01)	(-4.04)
Log likelihood	-26132	-9749	-22388	-8507
Sample	41827	16221	36156	14317

4. TPP、RCEPの意義

- 新しい国際分業に対応する新たな国際ルール作り。特に中小企業に利益。
- 単なる関税撤廃からサービス・リンク・コストの軽減へ。
- 生産ブロック誘致のための立地の優位性改善。
- TPP: 関税撤廃、サービス・投資自由化、知財保護、政府調達、競争政策などで成果が期待できる。
- RCEP: 生産ネットワーク活性化に直結する包括的な政策改善を目指す。ASEANレベルの自由化が実現できれば、経済効果大。
- 日本、複数の地域大FTAsにコミットして、交渉力を発揮すべき。

東アジア・アジア太平洋における広域FTA構想



日本、東アジア、アジア太平洋におけるFTAs締結状況

(2013年5月現在)

	日本	韓国	中国	ASEAN	インド	オーストラリア	ニュージーランド	モンゴル	アメリカ合衆国	カナダ	メキシコ	コロンビア	ペルー	チリ	EU	トルコ	EFTA	スイス
日本		○	○	◎: 2008 -	◎: 2011	○	○	○	○	○	◎: 2005	○	◎: 2012	◎: 2007	○	△		◎: 2009
韓国	○		○	◎: 2007 -	◎: 2010	○	○		◎: 2012	○	○	○	◎: 2011	◎: 2004	◎: 2011	◎	◎: 2006	
中国	○	○		◎: 2005 -	○	○	◎: 2008						◎: 2010	◎: 2006				△
ASEAN	◎: 2008 -	◎: 2007 -	◎: 2005 -	◎: 1993 -	◎: 2010 -	◎: 2010 -	◎: 2010 -		(◎: 2004Sg)	(○)	(○)		(◎: 2009Sg)	(◎: 2006BrSg, 2012Ma)	(◎: 2012Sg)		(◎: 2003Sg)	
インド	◎: 2011	◎: 2010	○	◎: 2010 -		○	○			○				◎: 2007	○	△	△	
オーストラリア	○	○	○	◎: 2010 -	○		◎: 1983		◎: 2005	○	○		○	◎: 2009				
ニュージーランド	○	○	◎: 2008	◎: 2010 -	○	◎: 1983			○	○	○		○	◎: 2006				
モンゴル	○																	
アメリカ合衆国	○	◎: 2012		(◎: 2004Sg)		◎: 2005	○			◎: 1989	◎: 1994	◎	◎: 2009	◎: 2004	○			△
カナダ	○	○		(○)	○	○	○		◎: 1989		◎: 1994	◎: 2011	◎: 2009	◎: 1997	○	△	◎: 2009	
メキシコ	◎: 2005	○		(○)		○	○		◎: 1994	◎: 1994		◎: 1995	○	◎: 1999	◎: 2000	△	◎: 2001	
コロンビア	○	○							◎	◎: 2011	◎: 1995		◎: 1969	◎: 2009	○	○	◎: 2011	
ペルー	◎: 2012	◎: 2011	◎: 2010	(◎: 2009Sg)		○	○		◎: 2009	◎: 2009	○	◎: 1969		◎: 2009	○	△	◎: 2011	
チリ	◎: 2007	◎: 2004	◎: 2006	(◎: 2006BrSg, 2012Ma)	◎: 2007	◎: 2009	◎: 2006		◎: 2004	◎: 1997	◎: 1999	◎: 2009	◎: 2009		◎: 2003	◎: 2011	◎: 2004	
EU	○	◎: 2011		(◎: 2012Sg)	○				○	○	◎: 2000	○	○	◎: 2003	◎: 1958	◎: 1996	◎: 1994	◎: 1973
トルコ	△	◎			△					△	△	○	△	◎: 2011	◎: 1996		◎: 1992	(1992)
EFTA		◎: 2006		(◎: 2003Sg)	△					◎: 2009	◎: 2001	◎: 2011	◎: 2011	◎: 2004	◎: 1994	◎: 1992	◎: 1960	(1960)
スイス	◎: 2009		△						△						◎: 1973	(1992)	(1960)	

注: ◎: 署名済みまたは発効済み、○: 交渉中あるいは交渉開始に合意、△: 共同研究中または準備会合開催。表中の年は当該FTAが発効した年を表す。いくつかのFTAsはモノの貿易に関する協定のみを含むものであり、サービスや投資に関しては交渉が進行中のものもある。EUとEU-トルコは関税同盟である。

国名にシェードがかかっている国は、TPP交渉に参加している、あるいは参加予定の国である。ASEANについては、ブルネイ、マレーシア、シンガポール、ベトナムのみが交渉に参加している。

出所: 各国の通商当局のホームページ。

2013/05/17

第2のアンバンドリングのための国際経済政策体系

	ネットワーク・セットアップ・コストの軽減	サービス・リンク・コストの軽減	生産コストそのものの軽減
国際間の生産のフラグメンテーション[地理的距離の次元]	<ul style="list-style-type: none"> • <u>投資円滑化・投資促進</u> 	<ul style="list-style-type: none"> • <u>制度的な連結性(関税撤廃、貿易円滑化など)</u> • 物理的な連結性(ハード・ソフトのロジスティクス/ICTインフラ開発など) 	<ul style="list-style-type: none"> • <u>生産サポートサービスの自由化・競争力強化</u> • <u>投資自由化</u> • <u>知財保護</u> • 電力供給、工業団地等のインフラサービスの向上
企業間のフラグメンテーションと産業集積の形成[ディスインテグレーションの次元]	<ul style="list-style-type: none"> • 多国籍企業と地場系企業のビジネスマッチング 	<ul style="list-style-type: none"> • 経済活動に関わる取引費用の軽減 	<ul style="list-style-type: none"> • 中小企業振興や都市圏インフラ整備による正の集積効果創出 • イノベーションの強化

下線を付した政策は、TPPなどのハイレベルFTAsによって手当て可能なもの。それ以外は開発アジェンダとして別途施行する必要がある。

5. アジア太平洋時代と関西の戦略

- 地域経済活性化のため、東アジアとの連携を強化しよう。
 - － 物理的・制度的連結性(コネクティビティ)の向上。
 - － 中小企業の海外進出サポート。
- 有効な生産工程・タスク単位の国際分業ができるよう、立地の優位性を高めよう。
 - － 何を日本／関西に残せるか？残すために何が必要か？
 - － 対内直接投資の活性化も視野に。
- 霞ヶ関にはない発想の産業振興・経済活性化を。

参考文献

- Ando, Mitsuyo Ando Fukunari Kimura (2012a) “How Did the Japanese Exports Respond to Two Crises in the International Production Networks? The Global Financial Crisis and the East Japan Earthquake.” *Asian Economic Journal*, 26, No. 3: 261-287.
- Ando and Kimura (2012b) “From Regional to Global Production Networks: Linkage between Europe and East Asia via CEE.” October. Forthcoming in a special issue of the *Journal of Economic Integration*.
- Ando, Mitsuyo and Kimura, Fukunari. (2012c) “International Production Networks and Domestic Operations by Japanese Manufacturing Firms: Normal Periods and the Global Financial Crisis.” RIETI Discussion Paper Series 12-E-047 (http://www.rieti.go.jp/jp/publications/act_dp.html).
- Baldwin, Richard. (2011) “21st Century Regionalism: Filling the Gap between 21st Century Trade and 20th Century Trade Rules.” Centre for Economic Policy Research Policy Insight No. 56 (May) (<http://www.cepr.org>).
- Economic Research Institute for ASEAN and East Asia (ERIA). (2010) *Comprehensive Asia Development Plan* (<http://www.eria.org>).
- Fujimoto, Takashi; Hara, Shoichiro; and Kimura, Fukunari (2010) “Comprehensive Asia Development Plan and Beyond: Growth Strategies for More Prosperous and Equitable East Asia.” ERIA Policy Brief ERIA-PB-2010-02 (<http://www.eria.org/pdf/ERIA-PB-2010-02.pdf>).
- Jones, Ronald W. and Kierzkowski, Henryk. (1990) “The Role of Services in Production and International Trade: A Theoretical Framework.” In Ronald W. Jones and Anne O. Krueger, eds., *The Political Economy of International Trade: Essays in Honor of Robert E. Baldwin*, Oxford: Basil Blackwell: 31-48.
- Kimura, Fukunari and Ando, Mitsuyo. (2005) “Two-dimensional Fragmentation in East Asia: Conceptual Framework and Empirics.” *International Review of Economics and Finance (special issue on “Outsourcing and Fragmentation: Blessing or Threat” edited by Henryk Kierzkowski)*, 14, Issue 3: 317-348.